

# 第1課

いかにして確実な  
ものを知り得るか



フランスの化学専攻の大学院生が勉学に行き詰まりを感じて、週末に逃げ出すことに決めました。彼が訪ねた町はたまたま私が住んでいたところでした。いくらか変わった状況から私たちは出会って、知り合いになりました。私たちは神、宗教、価値観について意見を交換しました。彼はあとで手紙で不安定な気持ちを伝えてきました。

「私は最近、無神論的とは言わないまでも非常に懐疑的な気持ちになってきたことを告白しなければなりません。私の多くの友人のように、教会は過去のものであって、未来に何ら解決を与えないと思っています。

基本的な善悪の概念は時代、文化、哲学、宗教と共に激変するので、だれも愛であると思われている神が何を基準として採用するかを予測することはできません。

私たちは過渡期に生きています。このところ生活は根本的に変化するもので、人は真の価値と拠り所を知るのに困難をおぼえています。この変転する世界で大切なことは、開かれた心を持つことでしょう……」。

大学院生はいくつかの正直で重要な問題を吐露しました。おそらくあなたも、彼や他の多くの現代人のように自分の懐疑の念を持ち始めていることでしょう。このコースは、これらの問題や同じような問題について、キリスト教は何と言っているかを、あなたが真剣に知りたいと願っていると想定してつくられています。

## アウトライン

- 真理の本質
- 真理を決定する基準
- 明確な思考の障害
- 疑いの原因
- 挑戦

## 考えるための問題

1. あなたは真理をどう定義しますか。
2. 真理決定の最初の8つの基準の中に、特にその1つひとつが唯一の基準として用いられる場合、あなたはどのような欠点を見ることができますか。
3. 組織的に首尾一貫した真理のために、どのような4つの側面が調和しなければなりませんか。
4. 明確な思考の4つの障害のうち、どの障害が一番クリスチャンに誤用されていると思いますか。
5. どのような疑いの原因（1つでもそれ以上でも）があなたにとって一番やっかいな原因ですか。
6. あなたは人生の大問題に対するクリスチャンの応答の確実性を心から探究したいと思っていますか。

## 用語の意味

- 絶対** ——不完全でないこと，完全
- 二律背反**——等しく有効に見える原則間の，あるいはその原則から正しく引き出された推論間の矛盾
- 価値論** ——価値の本質，型，基準の研究，また特に倫理における価値判断
- 経験者論**——知識はすべて感覚の知覚か経験に依存していると信じている人
- 認識論** ——知識の妥当性と同時に知識の本質，可能性，限界を研究する哲学の分野
- 相対論** ——知識は限界のある精神と知る状況にとって相対的であるとする理論。換言すると，倫理的真理はそれを持っている個人と集団によって決定されるという理論

## 学課の展開

今は、世界で流行している考え方に、基本的な善悪などは存在していないというものがあります。現代人は倫理基準や真理を、都合、状況、特権に基づいた相対的なものと考えます。そういったものは文化や時代や実践によって変わるものと言う人もいます。そういう人にとっては、「確実なものを知る」ということを考えるのに不安を感じるでしょう。彼は人生のあらゆる領域における絶対的基準を受け入れるのをためらっています。

善悪を考察すると、価値の問題、つまり哲学用語の「価値論」にぶつかります。これに関連した価値を研究していくと、直接知識の問題そのものに行きあたります。この古くからの知識の問題はこの課の主な主題です。

哲学者たちは、古代ギリシャの時代以来、この問題と取り組んできました。懐疑と悲観主義がこんなにあふれているような現代には真理に対する確信、あるいは固い信念を持つことは大切です。この問題は、意識するとしないとにかかわらず、まさに人格的存在の中核です。この学びを知識と真理について議論することから始めるのは、このような理由によるのです。

## 真理の本質

### 絶対的か相対的か

アブデラのプロタゴラス<sup>a</sup>は、真理は絶対的でなく相対的である、と論じました。それは単なる意見の問題であって、あなたにとって真理であれば、それはあなたにとって真理であり、私にとって真理であることが、私にとっての真理である、というのです。今日、多くの人がこのことを信じています。心理学の授業でかつて教授がこう言ったのを覚えています。「絶対的なものは1つしかない。それは絶対的なものなど1つもないということだ」。

こうした考え方は、人の見方は各々違うから、絶対的真理は不可能であるというものです。これは経験主義者の立場です。つまり、知識はすべて感覚の知覚によると言っている人です。この結果、「人間は万物の尺度」という信念が生じます。万物は流転し変化する、故に人間は彼自身の真実性を創造し、真理を創造する、というものです。経験主義者はいくつかの点で正しいと言えます。たとえば、私たちはすべて少し違った角度で環境を経験します。目の不自由な人は、目の見える人にはわからない多くの経験をもっています。たまたま私は少し色盲ぎみですが、このことだけでも、私の知覚はある程度変化します。

不幸にも、経験主義者は極端に走ってしまいました。あるものは確かに相対的であるため、すべてのものは相対的であると結論づけてしまったのです。これは不当な一般化です。経験主義は、全部を含む領域に適用されるとき、相対主義（真理は相対的であるとの立場）になり、懐疑主義（確かなものは何ひとつとして知り得ないという立場）に終わります。すべての人の意見はみな正しいということは、反対者の意見も正しいと認めることです。文化、状況、時代に応じて真理を相対化していくと、混乱が起き、次に懐疑となり、ついには絶

望におちこみます。

キリスト教の教えは、真理は相対的であるという考えを拒否します。イエスは言いました。「そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします」(ヨハネ8:32)。そのあとで、彼は驚くべき宣言をしています。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」(ヨハネ14:6)。

この2つの断言がもつ途方もない含みを考えて下さい。イエスは、彼と関わることは真理そのもの、すなわち絶対的真理に関わることなのだ、と言っているのです。

### どのように絶対的なのか

真理の絶対性を否定すると自己矛盾に陥ります。それは絶対的な真理を相対的にすることです。そうすることで、私たちは非論理的となり、つじつまが合わなくなります。「絶対的なものは1つしかない、すなわち絶対的なものは何もないということだ」と言った教授の言葉を思い出して下さい。絶対的真理は、それによって真実な意見でさえさばかれるような基準です。従って、判断の基準となる絶対的真理がなくては、妥当な意見は存在しえません。

絶対的真理は確かに存在しますから、すべてのものや考えは正しいとは言えないことになります。真理は誤りを含みます。そのために、真理と誤りを区別するある基準を確立することが必要になってきます。その前に、私たちは真理の実用的な定義を下さなければなりません。

### 真理の定義

カーネル教授は言っています。「真理は、判断ないしは前提の質であって、我々の経験における事実のトータルな証言となると、我々の期待を裏切らな



い」(カーネル P.45)。このように、真理は物事の実際面と一致するものです。それは本質的に真実なるものと一致します。たとえば、あなたがマニラ大学にスタ教授の講義があると聞いて、そこに出かけてみて、実際にその講義が事実であることを発見したりすると、その言葉は正しいことになります。「従って、真理は、その最も単純な次元において、ありのままの物事に一致する判断である」(同 P.46)。

きわめて厳密に言うなら、もう一步先に進まなければなりません。真理は究極的に、真理そのものである神の心との完全な一致、調和です。神はあらゆる事実の創設者ですから、神の永遠の性質から離れた実在はありません。カーネル博士の言葉、「なぜならば、神の心こそ青写真であって、宇宙のすべてはそれに従って造られたからです」(同)。

神の心は実在を完全に知っています。ですから、「真理は神の心と一致する判断を備えています」(同 P.47)。実在についての神の解釈と一致しない場合は、神は絶対的真理であり、誤ることもいつわることもありえないが、私たちは誤りに陥ります。このことに関する神の言明は旧約聖書から来ています。「神は人間ではなく、偽りを言うことがない。人の子ではなく、悔いることがない。神は言われたことを、なさないだろうか。」(民数記23:19)。

真理は神以上のものではありません。神と1つのものです。キリスト教の立場から言うと、真理は神の心と一致したものとして見られます。

---

## 真理の判断基準

もし真理が神の心と調和するものなら、いつ私たちの判断が神の心と調和するのかをいかにして知るのでしょうか。カーネル博士は、ある陳述が真実であ

ることを判断するためのガイドとして、理性的な人に受け入れられるような基準をいくつかあげています。

## 本能

本能は最も低い判断のレベルで私たちを助けることができます。精神分析学の創設者であるシグモンド・フロイト（1856-1939）は、このテストの有効性を擁護しました。彼は本能的なものは真理に違いないとさえ考えるにいたりました。

確かに本能は動機の力を与えますが、指導の面ではほとんど何も与えません。たとえば、無人島で私はどんな水でも見つかれば次第飲みたいという衝動を感じるでしょう。しかしその衝動は、飲料水の安全性を決定する上で役に立たないでしょう。だから、本能はあなたを促して真理を求めさせるかもしれませんが、真理と偽りを区別することはできません。さらに、本能は環境に適応できます。そこで、本能的なものと適応によって獲得されたものを見分けることは不可能です。従って、本能は真理を暗示することはありえても、それ自体で真理を評価することはできません。

## 習慣

習慣には、それが本来真理に基づいている限り、ある程度の価値があります。習慣とは個人が所与の集団内で確立されてきた習性、ないしは行動様式です。たとえば、ほとんどの社会において、若い人が両親や年輩の人を敬うことは習慣になっています。しかし、習慣は良くもなり悪くもなり、正しくもなり誤りともなり、神の心に合致することも調和しないこともありうるのです。

たとえば、昔、やもめが亡き夫の死体と棺をつつんでいる炎に投身した習慣がありましたが、今ではその習慣は一般的に良い習慣とは思われていません。

どの文化にも良い習慣とそうでない習慣があります。いろいろな時代のいろいろな場所の習慣は、実際に互いにつつかり合います。このように、習慣だけでは信頼しうる真理の判断基準とはなりません。

## 伝統

伝統とは、1つの文化内に固定した単なる習慣にすぎません。伝統に対してよく言われる共通の論議はこういうものです。「こんなに多くの人が、こんなに長い間まちがっていたなどということはありえないことだ」。過去に深く根ざしているキリスト教のある様式は、伝統に支配されており、信条や実践のための真理の証拠として伝統に訴えることすらするかもしれません。習慣の場合のように、伝統はしばしば助けになります。伝統は、最初から真理に基づいているなら、確かな影響力となりうる過去の根源を提供します。これらの伝統は、重要なものを想起させる役目を持ちうるのです。

しかし、伝統にも欠点があります。伝統の価値はどこまでもその根源に依存しています。しかし、たとえその根源が良くても、長い時代にわたって変化し腐敗する危険があります。真理に根ざし、かつ純粹に継承された伝統は有益です。しかし、もしその根源が誤っているか、時間によって腐敗しているなら、伝統は悪いものとなり、危険なものとならざるを得ません。

最後に、伝統にも相互の衝突がありうるということです。真理が伝統をつくらなければならないのであって、その逆ではありません。

## 全体の合意

この用語は「人々の同意」を意味するにすぎません。あらゆる場所で、すべての人によって信じられることは、真理確立の単純な基準のように常に響きます。これは事実よりも説得力があるように思われます。

たとえば、昔から人々は、太陽は毎朝昇り、毎夜沈む、と信じていました。私たちがもそういう言い方をします。そういう便利な表現は、私たちの目から見てそれらしく思われる出来事とマッチするからです。しかし、今では小学生の子供でさえも、それは地球の自転によって引き起こされる幻想にすぎないことを知っています。

あなたの祖先が信じていたことを信じることは、それが正しければ、良いことです。しかし、信じていたことが本当に正しいのかどうかを見つける必要があります。クリスチャンであった学生のルームメートの共産党員が、ある日、こう言いました。「我々は神などいないといつも教えられてきたが、仮にいたとしたらどうだろう」。

このように、「1つの前提は完全に信じられるに値するためには正しくなければならないが、それだからといって万人に信じられるものが正しいとは限らない」(カーネル P.49)。真理のこの判断基準は、それ自体では不十分なものです。

## 感情

だれでも感情、虫の知らせ、情緒、靈感、さらに確信にさえ、疑うことがどういうことであるかを知っています。これらは普遍的な、あらゆる人に用いられている信念と行動を決定する方法である、とあなたは言うかもしれません。おそらく、私たちが気づいている以上に重要な決定が、虫の知らせや瞬間の靈感に基づいている場合が多いのです。これは、すべてが悪いというわけではありません。情緒は人間づくりになくてはならない要素です。ほとんどの人にとって、あることについてどう「感じる」かが重要なことです。

しかし、それらは正しいかもしれないことの兆候を確かに与える一方で、感情は真に信頼しうる真理の判断基準ではないことも確かです。それらはほんや

りしており、漠然としたもので、しばしば不安定で誤りうるものです。それは体の疲れや病気や他の体調のアンバランスに左右され易いものです。真理はその妥当性を決定するのに、感情よりも客観的なものでなければなりません。

## 感覚の知覚

五感、すなわち視覚、触覚、聴覚、味覚、嗅覚から受ける印象は、真理を判断するための信頼できるテストのように見受けられます。実際、これらは真理の源です。たいていの時は、私たちは個人的体験を信頼できます。しかしそれには限界があり、私たちの感覚もだまされることがあります。たとえば、2本の線路は遠くでつながっているように見えます。半分水の中に入っているボートのオールは曲がって見えます。そして私たちのほとんどが、暑いほこりっぽい日に蜃気楼を見ます。

私たちはまた、歴史的記録や地理的データのような、私たちの感覚では経験できない多くのことを、有効な知識として受け入れています。たとえば、私たちはナポレオン戦争を経験していません。そこで私たちはその戦争を正しく知るために、書かれた記録に頼らなければなりません。私たちの行ったことのない国を正確に知るには、地図に頼らなければなりません。そこで、私たちは真理を知るために感覚の知覚だけに頼ることはできないのです。

## 一致

一致は、事実と一致している概念は真理であると宣言します。たとえば「木」という概念は、現実に存在している外の木と見事に一致しているなら、真理です。

特に具体的な事実の場合、一致には大きな価値があります。たとえば、過去の考古学上の発見は、聖書の中で私たちに与えられている多くの情報を確認し

ました。地理上の位置、人物の確認、場所、出来事、文化、他の多くの事実は、考古学の発見と聖書の記録とが一致したために、確実に有効なものとなりました。

このように、一致は真理の良い定義として用いられるかもしれませんが、その種の一致はいずれにしても確立されなければならないので、真理決定のテストとしては欠陥があります。もう1つの問題は、どのようにしてこのテストは、たとえば愛、幸福、美、喜びといった無形の価値と真理をはかるのに用いられうるかという点です。

## 実用主義

実用主義は、真理を「効き目のあること」と定義します。これは非常に簡単で直接的な真理発見方法に見えるし、事実、實際生活でほとんど毎日私たちが使っている方法です。もし料理人が正確に調理法に従うなら、その結果を予想できます。しかし、もし料理人が代用品を使うか、調理法を誤読するなら、元の調理法は失敗の責めを負うことはありません。

このように、私たちは究極的な真理につまらない結果や悪い結果を期待しないので、このアプローチには長所があります。しかし、しばしば効果があると見える物事は私たちの最善の利益のためになりません。私たちは未来の結果を十分見ることができないために、真理判断の基準としての実用主義の価値は少なくなります。物事が一時的に効果を出して好ましい結果を生むように見えるのは、それらの土台が真理でないときに可能です。たとえば、経済的に困っている人は、その勤め先のお金を着服することで彼の問題を解決できるかもしれません。この場合、彼の解決は一時的に効を奏するかもしれませんが、最後にはそのような行動は不満足なものに終わり、高くつきます。

真理の有効性は実用主義の「有効性」のみに依存できません。実用主義は懐

疑主義と絶望に導くことがあります。というのは、ある人にとって効き目のあるもの、あるいは、真理であるものは他の人にとっては効き目がないかもしれず、真理とならないかもしれないからです。キリスト教は真理ですから、それは効果があります。しかし、私たちはその真理を効果性の上に基礎づけません。

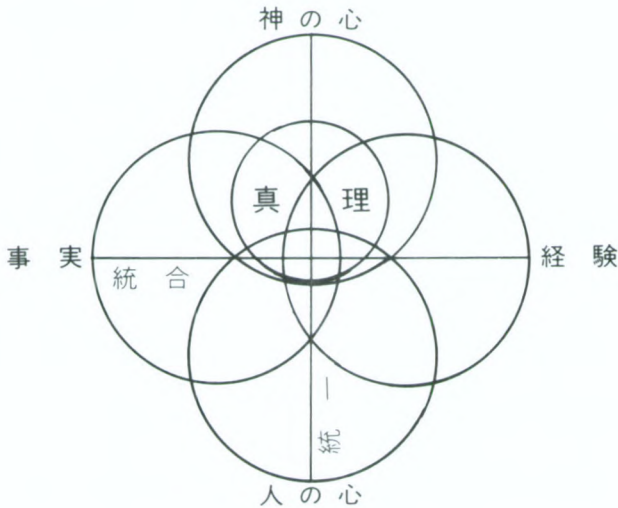
### 組織的首尾一貫性

組織的首尾一貫性は、最も信頼しうる真理判断基準のテストを与えます。これは、統一と統合の2つの部分から成っています。

「統一」とは、真の思想はすべて他の知られているものと調和するということです。全体の部分ないし特徴は、相互に一致していなければなりません。キリスト教には究極的、永遠の逆説（見かけの矛盾）、ないしは二律背反が存在すると、まちがって教えている人がいます。しかし、このような見かけの矛盾は、神の心に相反すると見える思想の最終的解決があるので、大目に見ることができでしょう。

しかしながら、統一性は十分ではありません。なぜならば、それは誤りが無いことを示しても、私たちは同時に、いかにして、いつ、また、なぜ真理は統合されるかを知らなければならないからです。「統合」は、「いかにして真理は統合するか」ということです。それは、すべての事実の包括的見解です。いろいろな思想が結び合わさって相互に関わり合っていると、真理を決定する確固たる土台がつけられます。

従って、組織的首尾一貫性は、「論理的に筋の通った（矛盾していない）もので、事実と経験の世界に適合するもの」です。神は、本来首尾一貫したお方であり、全ての事実の創始者ですから、これらは共に神の心にある真理と一致しています。



上図は、真理は事実と経験が統合されたものであり、理性的な人間の心と神あるいは絶対的真理の統一されたものであることを示すものです。

ここで論じられた真理の9つのテストを振り返って下さい。組織的首尾一貫性は、これらすべてを含むことがわかるでしょうか。最初の8つは、どれもそれだけでは真理を確認するのに十分ではありません。しかし、真理なるものは、圧倒的印象が肯定的になるように、否、真理の中に肯定的応答を引き出すものです。

## 明確な思考の障害

私たちは皆、新しい考えに直面したとき、当面の問題を明確に考えていることを確かめなければなりません。私たちに達するものが単に宣伝にすぎないの



なら、私たちはそのことに気がつかなければなりません。真理を検証することを求められ、昔からの偏見が立ちはだかるなら、私たちはそれらを克服するために、どうしてそうなっているのか、その偏見を認識する必要があります。テトス教授が概説している明確な思考の一般的障害を見て下さい（テトス P.26-29）。キリスト教についてできるだけ正直に、また理性的に考え続けて下さい。

## 偏見

偏見は精神的なもので、十分に考慮することなく判断してしまうことです。そして、ちゃんとした証拠を無視するか、過小評価するくらいがあります。今日、世界には多くの偏見があり、そのために正確な結論を出すことがむずかしくなっており、不可能とさえなっています。偏見は通常「事実」志向よりも「情緒」志向です。

## 宣伝

宣伝（プロパガンダ）という言葉は、ふつう1つの主張を促進するか妨害するために、情報を選択して用いるか偏向して用いることを意味して用いられます。その意味では人間操作の一形式です。それは、思考をコントロールする目的で用いられる強力な道具です。宣伝者は、前もって決められた応答を得るために人の感情につけこみ、言葉を連発します。宣伝は聖書的キリスト教のアプローチではなく、このテキストの目的、アプローチではありません。

## 権威主義

権威主義は、知識は権威によって保証され、「有効になる」という信仰です。それは事実や経験に一致するかしないかという道筋を無視して、「盲信」に基づいて受け入れられることを当然視します。クリスチャンは、聖書を究極

的な権威として受け入れるので、権威主義であると非難される時があります。クリスチャン自身はこの見方を受け入れません。なぜなら、聖書は事実と経験が調和する証拠を提供することを確信しているからです（この点については第4課で論じます）。

### 論理の虚偽

論理の原則の違反は3つのグループに分けることができます。術語、前提、一般化です。意味論的虚偽（術語）は欠点の多い、不注意な、もしくは不適切な言葉の使用です。あなたはある論議の中で、不注意に言葉の意味を変えるかもしれません。たとえば、「法」は自然法、立法、道徳法に適用できます。法という同じ言葉を使うのに、その意味を変えながら、特別な注意は払われていません。

形式的虚偽（前提）は論証における各段階の誤用に生じるもので、その結果私たちは私たちの基本的前提から無効の結論を引き出してしまいます。形式的虚偽の例として次の論議をあげてみます。男はズボンをはく。A氏はズボンをはく。故にA氏は男である。最初の前提において、男だけがズボンをはく、とは言われていません。従って、引き出された結論は欠点のある論証に基づいています。

経験的虚偽（一般化）は早急な一般化を行うところから生じます。出来事Bは出来事Aのあとに起きたので、私たちは誤ってAはBの原因であるという直接の因果関係が存在することを推定し、あるいは一般化するかもしれません。たとえば、私は夕食に何も食べないで床につき、翌朝目をさましたらひどい頭痛がするかもしれません。さて、睡眠前に食べないことは頭痛の原因となるという一般化は不適切です。

このように、論理の虚偽を避けるために、私たちは「術語」や「前提」の誤

用を避け、総括的すぎる一般化を避けなければなりません。

## 疑いの原因

正直な懷疑者とは、純粹に知的な問題をかかえている人、そしてその問題を解いてもらいたいと願っている人のことを言います。キリスト教についての疑いに関する限り、その妥当性を疑問視する4つの基本的原因があります。おそらくあなたは、このうちの1つかそれ以上の原因を確認できるでしょう。もしそうなら、あなたも自分に正直になって、そのことを認め、その原因を克服するようにつとめて下さい。

### クリスチャン間の不一致

クリスチャンと自称している人の中には、残念ですが、キリスト教がどういうものであるかを示す上で悪い例となっている人がいることは確かです。クリスチャンでない人たちが、クリスチャンから高い倫理的基準と信仰の首尾一貫した実践を期待するのは当然のことです。おそらくあなたが読んできた唯一の「聖書」は、あるクリスチャンの生活でしょう。どうか、そういうことに基づいてキリスト教を判断しないようにして下さい。むしろ、キリスト教の原則に基づいて調べて下さい。どうかキリスト教の「教科書」、すなわち聖書そのものに直接あたって心と知性を傾け、あなた自身を聖書とそこにある教訓にあてはめるようにして下さい。

### 情報不足

おそらくあなたは、今この瞬間に知的な疑いをもって苦しみ、キリスト教の真理を探求したいと願っていることでしょう。しばしばクリスチャンでない人は、キリスト教が本当に教えていることを誤って考えてきました。確実なものを知る唯一の道は、自分で聖書を学び、真面目でキリスト教のことをよく知っ

ているクリスチャンからその信じていることを聞き出すことです。本当に知的に正直であるためには、できる限り努力を惜しまないで、正確な情報源からキリスト教をつかむまで、キリスト教を拒絶してはなりません。

## 道徳的反抗

このことはあなたのことを思って言わなければなりません。多くの人がキリスト教を受け入れないのは、キリスト教についての何か、すなわちその高い道徳的かつ倫理的基準を知っていて、それに従って生活したくないからです。この点であなたは、自分の動機と疑いをさぐらなければなりません。イエスが神の子であってほしくない、聖書が神の本であってほしくないのは、それによってあなたの今のライフスタイルが乱されるかもしれない、と心配していたためであったのかもしれませんが。これはキリスト教を受け入れない共通の理由です。確かに、信じるどころまでできながら、結果を恐れたり、クリスチャンらしく生活する内的力の不足を感じたりして、受け入れることができずに捨ててしまう人がいるのです。

## 霊的無感覚

これは疑いの基本的原因です。最大の神学者にして純粋に知的な人であった使徒パウロは言いました。「生まれながらの人間は、神の御霊に属するを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです」(Iコリント2:14)。

私がこの学習の限界を感じるのは、まさにこの点においてです。私のできることといえば、たかだか、疑いに対して、選択するためのいろいろな事実や関連した情報を示すこと以外にありません。神の霊によらなければ、クリスチャン生活の妥当性を完全に「証明」することなど、だれにもできないのです。あ

なたがもし心を開いて喜んで真理を受け入れるなら、聖霊は霊的現実と経験に  
関して、あなたに内的確信を与えられるでしょう。

## 挑戦

このコースを続けることは、あなたが現実的でどこまでもやり通す態度をと  
らない限り、むだなことでしょう。もし神がいないのなら、それとわかるのが  
早ければ早いほどよいでしょう。もし神を信じるのが正しくなければ、それ  
は断固排除すべき悪です。一方、もし神がいるなら、神の心と働きを知り理解  
することは、私たちの経験で一番重要なことです。

もしイエスが単なるもう1人の倫理の教師なら、なぜこんなにさわぐ必要が  
あるのでしょうか。もし聖書が、神的なものを盲目的に探っている人間によって  
記録された多くの聖なる本の中の1冊にすぎないとしたら、なぜ聖書をわざわざ  
読んだり理解しようとするのでしょうか。もし祈りが単に「ひとりごと」であ  
るなら、そのような無意味なことは直ちにやめた方がよいでしょう。

私は何を言おうとしているのでしょうか。こういうことです。時間と労力と  
自己訓練を惜しまないで、キリスト教のイメージと意味とを真剣に考えてほし  
いということです。以下の点をおすすめします。

1. このコースの5課全部を学び通して下さい。「考えるための問題」「自己  
採点復習」「自習」のコーナーを、各課を掘りさげるための道具として用いて  
下さい。

2. 聖書を買って求めて、学課の中と特に各課の終わりの「自習」コーナーで  
使われている引用聖句を調べて下さい。自習コーナーでは聖書のある個所を読

んで、それについて意見を述べることが求められています。

3. 実験的方法の態度をとって下さい。時間とその気があるなら、福音書（マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ）を読んで下さい。短い連続的な箇所を、印をつけたり、自問したり、よく考えながら読んで下さい。

4. 各課の終わりに、これからの学習のためにその課のトピックに関連した本の短いリストがあげられています。各課の中で特別に興味や関心をもったところを、図書館や書店でそれらの本を探して読んで下さい。

これはきつい要求であることを私は知っています。しかし、これはまた、あなたの生活を改善することも知っています。先入観をもって始めないことをおすすめます。イエス・キリストの最初の弟子たちは、彼らの疑問が答えられ、疑いが氷解する以前に、彼に引きつけられたのでした。それと同じことがあなたにも起こりうるのです。

## 引用参考書——第1課

1. ブライトマン, エドガー シェフィールド 『哲学入門』 New York, USA: Holt, Rinehart, and Winston, 1963.
2. カーネル, エドワード ジョン 『キリスト教弁証論緒論』 Grand Rapids, Michigan, USA: Wm. B. Eerdmans Publishing Company, 1966.
3. テトス, ハロルド H. 『哲学の実際問題』 New York, USA: Van Nostrand Reinhold Company, 1970.

## 今後の学びのために

Carnell, Edward John. *An Introduction to Christian Apologetics*. (キリスト教弁証論緒論) 上掲.

3—6章は、特に真理の基準と性格を学ぶ上で有益である。

Keyser, Leander S. *A System of Christian Evidence*. (キリスト教証拠の体系)  
Burlington, Iowa, USA: The Lutheran Literacy Board, 1953.

2章と19—21章は、特に疑いと疑いをもつ人に関連している。

Pike, Kenneth L. *With Heart and Mind*. (心と思いをもって) Grand Rapids, Michigan, USA: Wm. B. Eerdmans Publishing Company, 1970.

1—6章は認識論と関わりのある知性を論じている。

Ramm, Bernard L. *The Good Who Makes a difference*. (違いを生じさせる神)  
Waco, Texas, USA: Words Books, Publisher, 1972.

2章と4章に、真理の性格と疑いの問題についての資料がある。

Trueblood, Elton. *A Place to Stand*. (立つ場所) New York, USA: Harper and Row Publishers, 1969.

1—2章は、精神の役割と信仰の確かさを持つことに対して、非常に有益な洞察を示す。



## 自 習

1. 新約のヨハネによる福音書18章を読み、特に28—40節に注意しなさい。あなたは以下の文にどのような意味、意義を見ますか。

イエスは言いました。「真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います」(37節)。

.....  
.....

ピラトは答えました。「真理とは何ですか」(38節)。彼の質問にあなたはどうか答えますか。 .....

.....  
.....

2. 真理を示すための最初の8つの基準がもつ主な欠点をあげなさい。

本能 .....

習慣 .....

伝統 .....

全体の合意 .....

感情 .....

感覚の知覚 .....

一致.....

実用主義.....

組織的首尾一貫性の主な長所は何ですか.....

.....  
.....

3. 死せる伝統の危険性について、新約のマタイによる福音書15章1—9節を読みなさい。この記事を読んで、あなたがどんな反応をしたかを短く書きなさい。

.....  
.....  
.....  
.....

4. それについて考えてから、あなたの場合、最もよくあてはまる疑いの原因は4つの原因のうちどれですか。それはなぜですか。

.....  
.....  
.....  
.....

5. あなたはなぜこれまで論じられてきた挑戦を受け入れることに関心をもったか（もっていないか）、簡単に説明して下さい。

.....  
.....  
.....

## 自習のガイドライン

これらの質問に対する解答は、学生によって違ってくるでしょうが、あなたの解答には以下の点が入っていなければなりません。

- 1 a. 真理の「性質」を本当に理解するなら、真理を啓示する者である」という彼の主張を認めるようになる、とイエスは言っておられるのです。

b. ピラトは真理を定義したり、真理の性質を理解することができない無能力を示しています。この個所の前後関係から、真理はピラトにとって「相対的」なものであることが示唆されています。ピラトはローマ人で、ユダヤ人によって伝えられた真理など彼にとって何ら個人的意味をもたなかったのです。

私の答えは、統一と統合の概念を含んでおり、神の心に見いだされるような真理にいくらか関わっています。

- 2 真理をためすための最初の8つの基準の主な欠点は次の通りです。

本能——選択すべき物事を区別するための案内を与えない。環境によって変わりうる。真理に対する主張を評価できない。

習慣——空間や時間によって変わり、事実相互に矛盾する。究極的答えを与えない。

伝統——源泉と伝達過程に依存している。源泉と伝達次第で悪くもなり良くもなる。

全体の合意——知識の広範囲にわたる誤解ないしは不足を示し、必ずしも真理の一般的な受容を示さない。

感情——非常にあいまいで、しばしば誤りを犯す。肉体的、精神的健康状態に左右される。

感覚の知覚——たやすく欺かれ、個人的経験に限られる。

一致——実際に一致を確立することはできないから、真理のテストとして失敗する。無形のものをはかるのに不適當。

実用主義——人間の限られた見解は、実際に効果のあることと、効果があると見えるだけのものを区別することかができない。また、ある人にとって効果のあること（真理であること）は、他の人にとって効果のないこと（真理でないこと）である場合がある。

組織的首尾一貫性の長所は、それが今までのすべてを包括し、加えて事実と経験の一致を見いだすための手段と、いかにして物事がつながって適合されるかを示すための手段を提供する点です。

- 3 真理は自己の利益のためにゆがめられうる。イエスは律法と伝統が正確に「守られること」より、その「目的」に関心があった。彼は、もし人が律法、伝統の背後にある理由と一致して行動することを求めるなら、自己の目的のためにそれを用いる問題はおきないであろうことを理解していた。
- 4 これはまったく個人的な答えであるが、あなたはこの課であげられた原因の少なくとも1つは認めなければなりません。他にも理由があるでしょうが、これらの疑いの源をたどることができなければなりません。
- 5 これもまたまったく個人的な解答ですが、正直に答える必要があります。

## 自己採点復習

1 「真理とは何ですか」とイエス・キリストに直面したポンテオ・ピラトは尋ねた（ヨハネ18：38）。以下の項目の中で、キリスト教の見解をあらわすものはどれか。あてはまるものを○で囲みなさい。

- a) 真理は現実と一致する。
- b) 真理は相対的なものにしかすぎない。
- c) 真理は確実に知ることはできない。
- d) 真理は神の心と一致する。
- e) 真理は神の別格である。
- f) 真理は神にまさる絶対的なものである。

思考の刺激：真理を定義できますか。この定義はあなたが科学、芸術、宗教のことを話す内容に従って変わりますか。

2 以下の真理基準の長所と短所をあげなさい。空白にそれらの番号を書きこみなさい。

- |   |               |      |                          |
|---|---------------|------|--------------------------|
| a | ..... + ..... | 本能   | 1) 主観的すぎる、肉体的要因に影響される    |
| b | ..... + ..... | 伝統   |                          |
| c | ..... + ..... | 感情   | 2) 動機づけの力を与える            |
| d | ..... + ..... | 感覚   |                          |
|   |               | 知覚   | 3) 確固とした影響力に見られる         |
| e | ..... + ..... | 実用主義 |                          |
|   |               |      | 4) 有効性はすべての人にとって常に良いと考える |
|   |               |      | 5) 真理と結果の一致を示す           |
|   |               |      | 6) 人間の行造の不可欠の部分          |
|   |               |      | 7) 不完全で時には不正確なデータを与える    |
|   |               |      | 8) 価値ある源泉の正確な伝達に依存しすぎである |

- 9) 条件づけによって変更されうる
- 10) 真理の源泉が個人的に経験される

思考の刺激：あなたは態度や信仰に影響を与えるような物事に、ふつうどの真理基準を用いますか。

- 3 以下の項目のうち、信仰に対する組織的首尾一貫性の利点を示すものはどれか。あなたが選ぶ答えを○でかこみなさい。
- a) 他のすべてのテストを包括する
  - b) 逆説に基づく
  - c) 諸事実の関係を検証する
  - d) 矛盾があるかどうかを定める
  - e) 神は首尾一貫していることを示す
  - f) 概念の統合性をテストする

思考の刺激：私たちはみな自己の思考と関係において、より大きな統一性と統合性を求めます。あなたの場合、どういう領域でこれが一番必要と感じますか。

- 4 明確な思考の障害とその定義を組み合わせなさい。空白に該当する番号を入れなさい。

- |         |       |                              |
|---------|-------|------------------------------|
| ..... a | 偏見    | 1) 重んじられた源泉からの証言を疑わないで受け入れる。 |
| ..... b | 宣伝    |                              |
| ..... c | 権威主義  | 2) 論理過程における言葉の誤用ないしは誤り       |
| ..... d | 論理の虚偽 | 3) 事実を十分考慮することなしで判断する感情的傾向   |
|         |       | 4) 特定の見解に都合のよいように事実や概念を故意に選ぶ |

思考の刺激：全く客観的になることはだれにも不可能であるから、あなた

は筆者の偏見を見いだしたことになります。あなた自身の偏見はわかりましたか。

5 以下の項目にどのような正直な疑いがあらわされているか。疑いの原因と思われるものを右側から選び、その番号を左の空白に書きなさい。

- |         |                            |          |
|---------|----------------------------|----------|
| ..... a | だれでも聖書は誤りで一杯であることを知っている。   | 1) 矛盾    |
| ..... b | 私はどうしても神を信じることができない。       | 2) 情報不足  |
| ..... c | 教会は偽善で満ちている。               | 3) 道徳的反抗 |
| ..... d | あなたがクリスチャンなら考えることはゆるされない。  | 4) 霊的無感覚 |
| ..... e | 私は遊びすぎたのでクリスチャンになることはできない。 |          |
| ..... f | キリスト教は老人と子供のものだ。           |          |
| ..... g | 祈りは心理的気休めだ。                |          |
| ..... h | イエスは偉大な教師だが、彼が何と言ったかは知らない。 |          |
| ..... i | クリスチャンは他の人とちっとも変わらない。      |          |

思考の刺激：あなたがこういった見解の1つでも今まで持っていたなら、今それを正直に弁護できますか。

## 自己採点復習解答

1 a), d), e)

2 a) 2) + 9)

b) 3) + 8)

c) 1) + 6)

d) 7) + 10)

e) 5) + 4)

3 a), c), d), f)

4 a) 3)

b) 4)

c) 1)

d) 2)

5 a) 2)

b) 3), 4)

c) 1), 2)

d) 2)

e) 3), 4)

f) 2), 3), 4)

g) 2), 4)

h) 2)

i) 1)



- 
- a プロタゴラス (B.C. 483-484)。討論の原則を展開したことで最も有名であったギリシャの哲学者。学者によっては彼を哲学者と考えずに、単に「漂泊の教授」と考える。彼の最も有名な言葉は「人間は万物の尺度である」。彼の相対主義の教えはこのような言葉から来ているが、古代哲学のすべての学者が彼の有名な言葉のこの厳密な解釈に同意しているわけではない。
- b これらの基準はカーネル P.47-62中に詳細に論じられている。同じ基準は、エドガー・シェフィールド・ブライトマンの『哲学入門』(1963, P.52-82) にさらにくわしく解説されている。
- c 前に論じた経験主義者は一般化をやりすぎ、感覚知覚を信用しすぎる点でまちがっている。

